

# 環境文化都市への挑戦

政令指定都市では初めて!  
昨年11月、  
全庁でISO14001の  
認証を取得。

札幌市では、全庁を対象に環境マネジメントシステムの国際規格「ISO14001」の認証を取得しました。今後、この仕組みを活用しながら、市民や事業者の皆さんとともに、さまざまな事務事業で環境への配慮を徹底していきます。

**政令指定都市では初めて  
全庁挙げての取り組み**  
札幌市では、全庁を対象に、昨年十一月二十二日付けで、環境マネジメントシステムの国際規格「ISO14001」の認証を取得しました。事務室での日常的な活動のほか、道路や公園などの公共工事、清掃工場や下水処理場といった処理施設の運転管理、環境保全を推進するための各種事業など、あらゆる事務事業を対象とします。全庁を対象とするのは、政令指定都市では初めての取り組みです。



ISO14001登録証交付



市はISO14001を活用して「環境文化都市」を目指していくんだね。

## 環境配慮へ決意表明 「環境方針」を策定

この取り組みに当たっての札幌市の基本的な考え方を示したものが「環境方針」です。一昨年九月に市長が策定し、市民の皆さんにも公表しました。環境方針では、環境配慮への決意を表明するとともに、環境都市への挑戦、職員意識改革、環境配慮の継続的改善を三つの柱とした基本方針を定めています。

## 環境方針の達成に向けて 目的・目標を設定

環境方針を達成するため、各職場でさまざまな目的・目標を定め、取り組みを行っています。目的・目標は、下記の五つの分野に分かれています。

## PDCAを確実に実施 事務事業を継続的に改善

環境マネジメントシステムの基本は、PDCA(PLAN:計画・DO:実施・CHECK:点検・ACTION:見直し)サイクルの繰り返しによる継続的な改善です。目標の達成状況などを定期的に点検し、事務事業を継続的に改善することを通し、「環境文化都市・さっぽろ」を目指していきます。

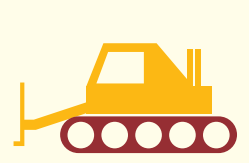
### オフィス活動

省資源・省エネルギー  
リサイクル  
グリーン購入



### 公共工事

土木工事  
建築工事  
雪対策



### 庁舎・施設管理

環境汚染の  
危機管理を徹底



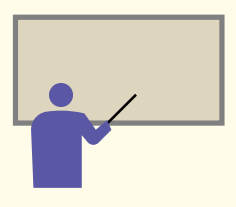
### 環境保全事業

「環境基本計画」を  
着実に推進



### 一般事務事業

市民・事業者への  
働き掛けなど



グリーン購入とは、製品を購入したり、サービスを受けたりする時に、価格や品質だけでなく、環境のことを考え、負担が少ないものを優先して選ぶこと



太田 幸雄さん  
(北海道大学大学院工学研究科教授)

プロフィール  
一九四七年生まれ。大気保全学、環境気象学が専門。平成十三年度の環境保全アドバイザー。

札幌は大都市でありながら、豊かな緑に包まれた街です。また、冬には降雪があるため、水資源も大変豊富です。普段はなかなか気付かないことなのですが、私たちは、大自然の恩恵をたくさん受けているのです。  
そんな私たちがだからこそ、この豊かな自然環境を守っていくため、「地球温暖化の防止」の先頭に立つて取り組む必要があるのではないのでしょうか。  
ごみ減量の推進はもちろんです、膨大なエネルギーを消費している除排雪対策の見直しは大切です。そして、周りには豊かな森林資源があるのですから、森林の二酸化炭素吸収効果を見逃すことはできません。  
そこで、札幌の特性を考えた温暖化対策として次の三つを提言します。

### 提言

ごみをできるだけ減らしましょう。

残念ながら、ごみはゼロにはできません。最終的に出たごみは焼却処分する必要があります。その際に出るエネルギーを発電や地域冷暖房、融雪などの熱源として積極的に利用しましょう。その分だけ石油や石炭の使用量が減ることになります。

### 提言

省エネルギー的な除雪、排雪を考えましょう。

冬の雪かきは大変な作業です。しかし、ロードヒーティングや融雪槽などのように直接石油を燃やして雪を溶かすよりも、ダンパーなどで排雪した方が二酸化炭素の排出量ははるかに少なくて済みます。

### 提言

森林の積極的な活用と保全を進めましょう。

また、札幌市では、一部で下水を利用した融雪施設なども設置され始めています。札幌市全体として、もっと省エネルギー的な除排雪対策をいろいろと考えましょう。  
日本の森林の約四割は人工林です。人工林は手入れをしなければ倒木、枯死につながります。しかし、現在の日本では安い外国材の輸入と山村の過疎化のため、山林で働く人が少なくなってしまう、森林が荒れています。  
倒れた樹木は腐敗分解して二酸化炭素を放出します。森林は成長段階では盛んに二酸化炭素を吸収しますが、成熟し老齢になると、光合成による成長と呼吸、腐敗分解とが釣り合って最終的には二酸化炭素を吸収も放出もしない状態になってしまうのです。

森林による二酸化炭素の吸収効果を生かすためには、成熟し老齢化した樹木を「適切に」伐採(これを間伐といいます)し、若い樹木を成長させなければなりません。また、間伐材は建材や割りばし、工用板材などとして有効に利用し、最終的には燃料として使用してはどうでしょうか。

なお、建設廃材も同じように燃料として使用することができます。森林全体として成長する分だけを間伐し、間伐材を最終的に燃料として使用すれば、石油・石炭の使用量を大きく減少させることができます。樹木は、再生が可能なエネルギーなのです。

## 「私からもひと言」 家庭は大切な 環境教育の場です

地球温暖化防止のために、家庭でもできることの一つは、無駄を省くことです。私は十年前にドイツから日本に来たのですが、各家庭の冷蔵庫があまりにも大きいことに驚きました。大きければ電気を余計に使いますし、すぐに使わないものまで買い込んでしまうこともあったと思います。

ドイツでは、肉や野菜はその日使う分だけを市場で買い求め、日用品などは週に一度、まとめ買いをするのが一般的です。それに、買い物袋や再生紙製の卵ケースを持参しますから、使い捨ての袋や容器はめったに利用しません。

地球環境を守っていくためには、シンプルでごみを増やさない生活習慣を子供に伝えていくことが、とても重要です。例えば買い物のリストを子供と一緒に作ることで、役立つのではないかと思います。家庭は大切な環境教育の場。家族みんなで暮らしを見直していくといいでしょう。



ハイケ・パーペンティンさん  
(札幌市環境保全協議会 副会長)

ドイツ出身のハイケ・パーペンティンさん。二キ君(右)とレオン君(左)もお母さんと一緒に笑顔で